

第1回名古屋市基本構想等審議会（令和8年5月26日）

要旨

日 時：令和8年5月26日 15時～17時

場 所：名古屋市役所本庁舎5階 正庁

出席者：委員21名（現地14名、オンライン7名）

（敬称略、五十音順）

（出席者）	
荒見 玲子	名古屋大学大学院法学研究科 教授
安部 賀央里	名古屋市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授
加藤 義人	岐阜大学 客員教授、名古屋都市センター 特任アドバイザー
金井 利之	東京大学大学院法学政治学研究科 教授
河合 雅司	一般社団法人人口減少対策総合研究所 理事長
窪田 泰江	名古屋市立大学大学院看護学研究科 教授、名古屋市立大学医学部保健医療学科 教授
桑山 知之	株式会社ヘラルボニー クリエイティブディレクター
近藤 早映	三重大学大学院工学研究科 准教授、東京大学先端科学技術研究センター 准教授
田中 憲子	名古屋大学総合保健体育科学センター 教授
谷口 由希子	名古屋市立大学大学院人間文化研究科 准教授
田村 真理子	一般社団法人日本ベンチャー学会 理事・事務局長
土肥 潤也	NPO 法人わかもののまち 代表理事
中川 書子	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
秀島 栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授
廣井 慧	京都大学防災研究所 准教授
松井 健斗	株式会社カナメヤ 代表取締役 CEO
水野 英雄	椙山女学園大学現代マネジメント学部 准教授
武藤 敦子	名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授、名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター 副センター長
横山 淳一	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授
吉江 俊	東京大学大学院工学系研究科 講師
和田 真理子	兵庫県立大学国際商経学部 准教授
（欠席者）	
伊藤 聡子	キャスター、開志創造大学大学院 客員教授 欠席
古田 徹也	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

オブザーバー

中部経済連合会
名古屋商工会議所

1 開会

(1) 市長挨拶

- 1977 年の基本構想策定以降、デジタル化や少子化、価値観の多様化など世の中は大きく変化しており、今後も AI の進化など大きく変化していくことが見込まれるため、将来を見据えて基本構想の改定を行う。
- 長期的な視点で名古屋のあるべき姿を整理し、基本構想の本文案を取りまとめ答申いただきたい。また次期総合計画の計画体系のあり方も検討いただきたい。次の基本構想が、名古屋の将来に向けた羅針盤となり、市民が誇りと希望を持てる都市づくりにつながるものとなるよう、議論をお願いしたい。

(2) 会長選出

- 委員より推薦があり、全会一致で加藤委員の会長就任を決定

(3) 市長から審議会への諮問

- 広沢市長より、「1.本市の基本構想の改定に関すること」「2.本市の総合計画に関すること」の2事項について意見を求める諮問書を読み上げ、加藤会長へ手交

2 議題

(1) 事務局による説明（名古屋市基本構想について）

- **現行基本構想の位置づけと構成**：1977 年策定の現行基本構想は市の最上位理念であり、「基本理念」「望ましい都市の姿」「名古屋の役割」「施策の大綱」「市政運営の基本姿勢」の5項目から成る。
- **現状認識**：基本理念など今日において通ずるところもあるが、策定から 50 年近くが経過し、社会経済情勢の変化に伴い「望ましい都市の姿」や「名古屋の役割」など現状との間に齟齬が生じており、精査が必要である。
- **他都市の状況**：指定都市の中で名古屋市の基本構想が最も古い状況である。近年に改定した 6 都市（静岡市、京都市、神戸市、岡山市、北九州市、熊本市）の基本構想を参考にお示しする。
- **改定にあたる基本的考え方**：行政計画の最上位として「普遍性の確保」を意識し、2050 年頃のまちの姿を想定して議論する。同時に、どこにでも当てはまる内容ではなく「名古屋らしさ」を加味していきたい。

(2) 各委員の意見

意見全体の要旨

- **基本構想の位置づけ**
 - 市民・関係団体・行政等が共有する共通ビジョン
 - 具体計画ではなく「行動の基準・理念」
 - 25 年、50 年、100 年先を見据えた都市の設計図・指針
- **基本構想の表現・策定プロセス**
 - 市民目線で、シンプルかつ短く、分かりやすい内容で作成すべき
 - 長期的に活用できるような内容、印象に残る内容で、名古屋らしさ・独自性も表現すべき

- 現行基本構想の普遍的価値を継承しつつ再定義すべき
- 当事者（若者や子ども、障害者）の意見を反映すべき
- 複数のシナリオプランニングや未来を想像する SF 思考を導入しても良いのではないか
- 市政が重視する価値の言語化が必要ではないか
- 文章だけではなく、未来マップのようなビジュアル化をしても良いのではないか
- 先に文量などを決めてから検討した方が良いのではないか
- これまでの名古屋市の都市政策の成果を振り返り、レガシーとして継承すべきものを示すべき
- **名古屋市の役割として必要な視点**
 - 周辺の圏域における産業・交通・物流・人材などの中核・拠点
 - 自立的に発展する日本の代表的都市
 - 国際的に開かれた都市
- **目指す都市の姿として必要な視点**
 - 共生・共創社会
 - 誰もが自然体でありのまま生きられる、働きやすく、生きがいを感じられる
 - 若者、子ども、障害者、外国人など一人ひとりが主体となる
 - 持続可能な都市
 - 人口減少社会に戦略的に対応
 - 税源涵養
 - 地球環境・生態系と調和
 - 魅力ある国際都市
 - 市民が愛着・誇りを持てる魅力ある都市
 - 観光産業を基盤とした世界とつながる多文化共生都市
 - 災害に強い都市
 - 災害、感染症、気候変動に強い
- **具体的な施策として必要な視点**
 - 市民共創・コミュニティ・健康
 - 市民主体のまちづくり
 - 誰もが運動しやすい環境整備、市民の交流・集いの場づくり
 - 共生・人材育成
 - 多文化共生
 - 主体性教育
 - 都市構造転換
 - 拠点集約型まちづくり
 - インフラの適正配置・維持管理
 - 経済・国際競争力強化
 - 港湾・空港強化
 - 観光産業の強化
 - 税源涵養
 - 環境・災害対応

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 環境問題への対応、資源循環● 災害対応強化 |
|--|

委員ごとの意見

● 横山委員

- 基本構想の位置づけ・目的を委員間で共有する必要がある。基本構想は市民や関係者が共有できるようシンプルかつユニークであるべき。
- 現行基本構想を分析して残す・修正するところを確認し、人口構造変化などの重要課題や背景・前提を丁寧に述べるべき。
- 名古屋市民は他者に対して謙虚な傾向があるため、「シビックプライド（誇りや愛着）」を醸成・共有できる基本構想を目指したい。

● 荒見委員

- 表現を時代に即したものに変わっていくと良い。
- 「名古屋の役割」について、全国的な立ち位置を意識し、周辺都市と連携して生活・経済・文化の圏域全体を高めていく姿勢や意欲を反映させると良い。
- 名古屋らしいオリジナリティとインパクトがあり、誇れる良さや魅力を前面に出した親しみやすい内容が必要。歴史や文化といった強みも示していくべき。
- 消防団への学生参加、活発な自治会活動、防災 NPO、生協など、行政以外の強い市民社会の存在をもっと言及すると良い。
- 昔の昭和的な性別分業意識や標準的な世帯ではない方への固定観念が行政にも市民にもまだ残っているため、様々な属性の人が住みやすいまちにできるような基本構想にしたい。

● 安部委員

- 学生も含め、名古屋が持つ高いポテンシャルをしっかりとアピールすべき。
- 基本構想として、時代を超えて通用し、シンプルで分かりやすく、全国に伝わるものにする。
- 名古屋の良さ、誇りを持てる点、ワクワクする要素を組み込んで誇りを持てるようにしたい。

● 河合委員

- 基本構想は「100 年後に向けた設計図」であるべき。2050 年までにどう取り組み、未来への投資につなげるかが問われる。2026 年現在の社会を前提にした構想では意味がない。
- 人口減少に伴い、戦後の東京型経済成長モデルは終焉していくため、基本構想には、名古屋が「人口減少対応型都市」へ生まれ変わるための方策が必要。
- 具体的には、まちを拡大していくのではなく、市内に拠点エリア（軸）をいくつか設けて生活機能を集約すること及び内需の縮小に備えて港と空港の機能を早期強化し国際都市化を急ぐことの 2 点が不可欠。
- 東京、大阪に次ぐ 3 番目の位置に安住せず「ナンバーワン都市」を目指す時。名古屋が磨くべきものを整理し、オンリーワン戦略を打ち出すべき。

● 窪田委員

- 外国人の増加を実感しており、人口減少社会の中でいかに外国人をうまく取り込んでいくかという視点を入れるべき。
- 次世代育成の重要性をアピールできると良い。
- 不登校や発達障害の子どもたちが、予約が取れないなど医療アクセスに苦労しているため、名古屋市ならではの大学（名市大など）との連携による支援体制のあり方を考えたい。

- 最初に基本構想のボリューム（A4用紙1枚程度にまとめるのか、文章量を持たせるのかなど）の方針を決めてからの方が検討しやすい。

- **桑山委員**

- 障害のある人をケアや支援の対象ではなく可能性を拡大してくれる存在、共に生きる仲間へと変換したい。そのため、策定プロセスの中で当事者を交えた議論やヒアリングを行うべき。
- クリエイティブの視点でいうと、分かりやすすくないと浸透しない感覚があるため、短くシンプル（箇条書きなど）に言語化すべき。
- 言語だけでなく、目指す未来を描いたマップなどのビジュアル化も検討できると面白い。

- **近藤委員**

- 現行基本構想は目線が行政にあったが、人口が減る中でみんなでまちを作る必要があるため、市民・外国人等の目線で作成していくべきであり、それは名古屋らしさという側面を併せ持つ。
- ハードの視点では、空間については、拡大ではなく適正箇所への集約・維持に力を入れるべき。サイクルレーンの整備など、名古屋は人間中心のまちに変わってきていると思うので、そういったこともきっかけに検討したい。
- 短期間で変えるのではなく、50年・100年先も生きる、長く愛される拠り所としての指針が良い。それを踏まえると、基本構想で新しい社会システムモデルを作っていくことになるのではと思う。

- **田中委員**

- あらゆる活動の基盤は「健康」である。現行の基本構想では運動・スポーツがレクリエーションの一環と捉えられている印象を受けたが、現在は各種疾病や認知症の一次予防・二次予防策のひとつへと変わってきているので、それをアップデートしたい。
- 分野を横断する横串の視点へ変更し、運動やスポーツの重要性を位置づけ直したい。
- アジア・アジアパラ競技大会等に向けたスポーツ施設の整備も進んでいるが、その利活用だけでなく、障害者等を含めた「誰でも運動しやすい環境づくり」や、市民の交流・集いの場としての視点も必要。
- プロスポーツチームや名古屋城などの既存資源の最大化を意識すべき。

- **谷口委員**

- 一人ひとりの基本的人権が守られ、多様性が尊重されるという大前提が必要。現行基本構想の「生きがいがある生活」という表現ではなく、「ありのままで、自分らしくいられること」を重視すべき。
- 子どもを市民の一人として捉え、単なる理念ではなく「子どもの声を聞く仕組み」を整え、権利の実質化をすることが必要。権利を守られた子どもが、権利を守る大人になるという循環が見られる都市が重要。

- **土肥委員**

- 100年後の未来に向けて、未来の世代（子ども・若者）の声がきちんと反映されたと感じる基本構想にすることが非常に重要であり、それを基本構想に位置づけるべき。こども基本法の趣旨通り、子どもを政策の対象ではなく主体とする。
- 名古屋は子どもの権利条例や第三者機関「なごもっか」の設置など、全国トップクラスの子どもの権利の先進自治体だからこそ、この取り組みを重視すべき。不登校などの困難な状況にある子どもたちの声も基本構想に反映していくべき。

- ドイツ・ミュンヘンの事例のように、「子どもと家族に優しいまち」を経済政策（人が集まり、働き手が増え、企業が集まる）の上位概念として掲げる都市づくりを検討してはどうか。

- **秀島委員**

- 人口減少という新しいフェーズにおいては、きちんと計画を立てる必要がある。20～30年、できれば100年先を見据え、SF思考のようにあえて「ぶっ飛んだ未来」を考えてインパクトのある構想にしたい。
- 現行基本構想は50年経っても大きく外れていないが、それは名古屋が今まで順調で大きな問題がなかったからとも言える。今後はそうではないとすれば、多様な分野と外部の目を織り込むべき。
- レトリックな話ではあるが、具体的な名称を出すと他とのバランス論になり、抽象化しすぎると印象に残らなくなる。しっかり議論して、インパクトのあるものにしたい。

- **松井委員**

- 他委員からの指摘にもある通り、名古屋の学生のポテンシャルは非常に高い。産業・観光・文化などあらゆる分野の発展において学生・若者の存在は必要不可欠であり、彼らの市外流出を防ぎ、地域への誇りや愛情（シビックプライド）を醸成する仕組みが必要。
- 名古屋市は大学生数が全国有数（市町村別2位）という大きな強みを持っている。昨今注力されているスタートアップ分野における起業志望の学生だけでなく、今後50年、100年先を見据えて一般の幅広い層の学生の想いも広く汲み取り、学生主導でまちづくりに関われる「学生タウン名古屋」としての姿勢を大前提に据えるべきである。
- 学生や若者を「お客様」や「教える対象」としての存在ではなく、共に未来の名古屋を創るまちづくりの「パートナー」として基本理念に明確に位置づけるべきである。基本構想や総合計画の中に学生・若者が名古屋市設計のパートナーという位置付けを明記し、学生や若者が名古屋市のまちづくりを「自分事」として捉えて活躍できる環境基盤が、永続的な名古屋市地域の活性につながる。

- **水野委員**

- 現行基本構想の観光に関する記述は産業振興の中の一文のみで、当時は産業中心で良かったが、現代は観光でがつつり稼ぐ視点が極めて大事。名古屋城をはじめ、他にない資源を活用して経済的に十分なものを作っていくべき。
- 規模の経済性に関して、人口減少社会において現在の都市規模のインフラや経済水準を維持するには、外国人をいかに増やすかが重要。観光を通じて国際理解を深め、外国人との共生を図る視点が必要。
- 名古屋市は第3の都市と言われるが、世界的に見て知名度があまりない。世界中から良いものを吸収し、グローバル社会を生き残れるような多文化共生都市ということを基本構想でも検討したい。

- **武藤委員**

- 現行基本構想は都市の発展や利便性がテーマだったし、家族像は標準的な夫が会社員、妻が専業主婦であるような三世代同居家族を前提に、女性の社会進出を見据えたものだったが、現在は生き方・働き方・価値観が多様化している。
- 都市を大きくする発想から、人口減少下でもどう持続できる都市を作るかへ発想を転換し、多様な人が無理なく都市を支える仕組みが必要。

- 2050 年を見据えると、多様性を特別に意識・推進する段階を超え、属性の違いを強く意識しなくても、誰もが自然に社会に参加でき自然体でいられる都市を目指す視点を盛り込むべき。

- **金井委員**

- 自治体行政学の観点から、文章化されている「形式的意味の基本構想」の内容とは別に、名古屋市政や市民が何を本当に大事にしてきたのかという「実質的意味の基本構想」を確認・言語化したい。
- 将来ビジョンについては、シナリオプランニングというが、予測が外れた際のリスクを避けるため、振れ幅の大きい複数の質的なシナリオを作れたら良い。予測が外れるのを恐れて何でも入る抽象的な構想にすると意味がなくなる。国の人口推計のように量的な推計だけに頼ると下振れして外れたりもするため、各委員の意見によりエッジを立てた質的なシナリオで長持ちさせたい。

- **田村委員**

- 人口減少下で経済を発展させるため、中小企業・小規模経営者が持続的に成長し稼ぐ力を高めるための名古屋特有の視点が何かを確認したい。スタートアップ等の強みや新たな若者の視点を活かして、既存の財産を繋げていくという新陳代謝がどうできるか、それができると、地域の特徴を次の資源に繋げるといった好循環ができるため、そういった点も検討したい。
- 教育面では、子どもたちが主体性を持つためのアントレプレナーシップ教育の視点を取り入れたい。名古屋大学などでの既存事例を基に、現状と将来に向けた視点があるのかということを探りたい。
- 現行基本構想は今も使える表現が多いが、100 年後に向けた新たなメッセージをどう加えるか検討したい。また、シンプルで分かりやすい表現にすべき。

- **中川委員**

- 50 年前の人間中心の視点から転換し、人間活動が地球環境に多大な影響を与える現代だからこそ、地球環境との調和を意識すべき。緑や動物だけでなく、気候変動や目に見えない大気環境物質にまで意識が及んだ内容とすべき。
- 1000 年持続可能な社会という点では、人間は生態系の一員であるという意識のもと、物質やエネルギーを循環させ、生物多様性のバランスを取る、生態系の中のまちを意識することが大切である。野生動物との共存や住み分けといった課題にも繋がる。
- 廃棄物を捨てる思想から、再生可能資源として循環させる仕組みへ変える。名古屋市だけでなく、近隣の市町村と連携した広域圏での資源・エネルギー循環の仕組みを中心となって進める役割という位置づけが望ましい。
- 加害者と被害者が分かれやすかった昔の公害問題とは異なり、市民全体が加害者にも被害者にもなる地球温暖化や水環境問題などの大きな環境問題に関しても言及していくべき。

- **吉江委員**

- 基本構想は、市のアピール以上の重要な役割を持っている。それは、基本構想の下に位置づけられる具体的な計画が、どういう考えに基づくのかを示すものであり、計画の倫理を担うものである。
- 現行基本構想は、個人から社会を考える姿勢が一貫しており、現代にも通じるテーマである。一方で、市街地整備などの記述は一般的な都市計画論にとどまり、名古屋固有の内容に対する言語化ができていない。

- 今後のアプローチとして、これまでで成熟されてきた都市の何をレガシーとして受け止め継承するかという視点が必要である。また、現行基本構想にある「心豊かな人間環境」の具体的な言語化が必要で、歩いて暮らせる都市、さまざまな機会を享受できる都市、パブリックライフの豊かな都市などが挙げられるだろう。さらには当代の生活だけでなく長期的な資産として都市を継承する持続性や、ポジティブな価値を生み出し続ける「リジェネラティブ」な仕組みづくりなどが必要。

- **和田委員**

- 神戸市の基本構想策定の経験も踏まえると、現行基本構想は若干長く、硬い印象があるため、市民が覚えやすくイメージしやすい言い回し・コンパクトな長さが重要。
- 固有の文化や伸ばすべき強みなど、名古屋らしさが具体的にイメージしにくいいため、市民の意見を聞きながら分かりやすく表現すべき。
- 市民参加の理念を一步進め、行政目線の参加ではなく、マルシェ活動のような地域で自分のやりたいことを実現するできるような、市民がワクワクしながら関わられるようなコミュニティのあり方・視点を入れることが重要。

- **廣井委員**

- 現代の複雑な課題（人口減少、高齢化、災害リスク、インフラ老朽化など）は単一分野で解決できない。名古屋は突出した要素があるというより、生活・産業・交通・大学・行政など全てが平等に高い「総合力のある都市」が強みであるため、各分野が連鎖して動く未来を描くべき。
- 災害、感染症、猛暑などの危機が生じた際にも、市民生活を支え、都市機能を失わずにしっかりと回復・変化していく力を持つという視点が必要。
- 東京・大阪とは異なる形で、日本全体を支える産業・交通・物流・人材など多様な分野の広域的な拠点都市としての役割を都市像に含めるべき。
- 名古屋の課題は他都市共通のものであるため、市民参加や地域の力、デジタル技術なども進め、あるべき未来を示し、他都市に展開可能なお手本となる構想を目指すべき。

- **加藤会長**

- 人口減少を無抵抗に受け入れるのではなく、戦略を持って対峙する姿勢が必要。名古屋の課題として、①若者の東京への流出と0～14歳の社会減、②2000年以降の事業所数・従業員数の伸び悩みと昼夜間人口比率低下などの産業集積の停滞、③財政状況の硬直化がある。
- 新しい基本構想には、①リニア開業後の国土発展への貢献、②世界から憧れられる都市、③個人市民税と固定資産税など税源涵養の戦略性の3点を求め、世界を視座に置いて存在感を強めて稼げる名古屋を作り上げる姿勢が、基本構想に盛り込まれることを希望する。

- **欠席委員の意見**

- **伊藤委員**：東京一極集中に対し、名古屋圏は自立的発展を遂げる「第二極」として、持続可能なまちづくりを牽引すべき。南海トラフや気候変動による災害の激甚化に対し、モノづくりの強みを活かした最先端技術で中核都市として牽引するべき。また若者（特に女性）の流出を止めるため、一人一人が多様な幸せを実現できるような環境作りが重要。
- **古田委員**：現行基本構想は重要な内容も多く含まれているため、普遍的価値を継承しつつアップデートすべき。文言が抽象的・一般的になりすぎないように注意し、すぐに陳腐化するような流行り言葉は避け、寿命の長い言葉、幅広い世代に理解しやすい言葉を用いるべきである。

- **加藤会長（総括）**

- 事務局へ名古屋が抱える重要課題や名古屋の役割をどこに置くか、何をレガシーとするか、文化とは何かなどといった投げかけがあった。また、ボリューム感や構成のイメージを共有しながら文案作成に臨む必要性を確認した。
- 各委員から出たキーワードとして、多様性受容、命の教育、新社会システム、健康予防、子どもの声の反映、若者のパートナーとして位置づけ、観光で稼ぐ、ぶっ飛んだ未来を描く姿勢、質的な複数のシナリオプランニング、地球環境調和、長期的に資産を継承する概念、広域拠点など、様々なものがあった。

3 その他

(1) 事務局による説明（審議会の想定スケジュール）

- 今後2年間で概ね8回程度の開催を予定しており、今後部会の設置も検討している。第2回審議会までの期間で個別ヒアリングを実施したい。また、今後市が行っているデータ分析等についても資料として提示していきたい。

4 閉会

(1) オブザーバー及び市長・副市長のコメント

- **中部経済連合会**：最大の課題は女性の転出。製造業の強みは維持しつつ、女性が魅力的と感じる職場や多様な人材が自己表現できる環境整備が必要。また、文化・芸術・スポーツ・エンタメなどのソフト面を充実させることも重要。広域観光のゲートウェイの役割や多文化共生も盛り込み国内外から「住みたい・働きたい・訪れたい」と選ばれる都市像を盛り込んでほしい。
- **名古屋商工会議所**：人口減少下での産業力維持が重要。放っておくと減る人口に対し選ばれるまちになるための行政努力や知恵が必要。インフラ関係の人手不足を踏まえ、各エリアの中心への集約及び産業を支える幹線道路・交通網の維持など意識しながら構想をまとめてほしい。
- **中田副市長**：基本構想と総合計画の書き分けを整理したい。総合計画は検討を進めていくと丸くなりがちであるが、基本構想ではぶっ飛んだというような所も意識して練り上げていきたい。
- **杉野副市長**：市民に分かりやすい表現の重要性と、100年後を作っていく世代が当事者として参加することの重要性を感じた。
- **吹上副市長**：50年・100年後の人たちが受け取るメッセージとして、今はぶっ飛んで見えても、未来の人が見たときに、なかなか考えたねと言われるような先鋭化されたものを作りたい。
- **広沢市長**：長い期間持たせようとする、誰もが同意するような人権、平和とかそういった内容になりがちだが、尖ったものにするという視点も重要であり、その辺りの整理についてもぜひ議論していただきたい。

(2) 閉会

- 事務局より、第2回審議会は10月頃を予定している旨、その間の個別ヒアリングを予定している旨説明があり、閉会